

愛知県岡崎市 外国人乳幼児が多い認可外保育施設の特例

現状・課題

- ▷岡崎市を含む西三河地域は、製造品出荷額等の全国シェア約1割を占めるものづくり地域であり、日本を牽引する製造業の集積地となっている。外国人市民の仕事で工場労働者が一番多く、ブラジル人は60.9%を占めている。また、平成2年の改正入管法施行以降、岡崎市ではブラジル人を中心に外国人市民数が増加しており、令和6年1月1日には過去最高の13,748人を記録している。
- ▷外国人乳幼児が多い認可外保育施設では、主な使用言語が外国語であるため、外国語を話せる人を雇う必要がある。
- ▷日本の保育士資格を保有し、かつ、外国語を話せる人を雇うことは難しい。



事業概要

指導監督基準上、認可外保育施設において保育に従事する者の3分の1以上は日本の保育士等の資格を保有していなければならないが、外国人乳幼児が多い認可外保育施設では基準を満たすことが難しい状況である。

そのため、愛知県岡崎市の外国人乳幼児が多い認可外保育施設については、日本の保育士等の資格保有者の割合が3分の1未満であっても、外国の保育資格を有する者を配置するなど一定の要件を満たした場合、指導監督基準上の保育従事者の数及び資格の要件に適合したものとみなす。



効果

保育施設は、乳幼児と同じ言語を話せる保育従事者を積極的に採用することができ、保育従事者と乳幼児の間に、円滑にコミュニケーションをとりながら保育することができる。
また、指導監督基準を満たすことで令和6年10月以降も無償化対象施設となる。



乳幼児の処遇及び保育の質の向上